

「二つのものを一つにし」

1. はじめに

- ・来年も平安でありますように。
- ・日本人の新年での祈りは「無病息災、家内安全、商売繁盛」です。「この一年、健康で何事もなく、家族が幸せに暮らせますように。」素朴ですが、深い想いです。
- ・今回のテーマは「平和」です。ユダヤ人と異邦人の間には敵意があった。イエスの十字架は敵意を葬り去り、二つの敵対するものが一つになり、キリストにあって教会が一つになった。平和の実現である、というメッセージです。
- ・聖書では、究極的には新天新地、または神の国において平和が実現しますが、地において平和をつくる者は幸いですとイエス様は言われる。私たちと平和ということを考えてみたいと思います。

2. 本文

- 1・私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。
その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。10節
 - ・召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。4章1節
- 2・ですから、思い出してください。11節
 - ・あなたがたは①異邦人であった。②無割礼の者であった。③約束の契約から除外されていた。④望みもなく、神もない者であった。11、12節
 - ・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされた。
- 3・キリストこそ私たちの平和です。14節
隔ての壁を打ちこわし、戒めの律法という敵意を廃棄された方だからです。
 - ・新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するため 15節
 - ・十字架によって神と和解させるため 16節
- 4・キリストが礎石。使徒、預言者が土台。20節
 - ・キリストにあって、建物の全体が組み合わされ、成長し、主にある、聖なる宮となる。21節
 - ・あなたがたも、神の御住まいとなるのです。22節
 - ・キリストの満ち満ちた身たけ⇒賜物の多様性。4章13節

3. まとめ

- ・天には神の栄光、地には平和。「わたしに従いたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負いわたしに従ってきなさい。」イザヤはこのように言われた私たちの主イエスの生き様を次のように預言した。「彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口をひらかない。ほふり場に引かれて行く子羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。」イザヤ53：7～11